

## 日本臨床検査医学会 2021 年度 第 2 回理事会 議事録

日 時：2021 年 7 月 3 日（土）14：00～17：00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

開催方法：オンライン（Zoom）

出席：村上正巳 理事長、東條尚子 副理事長、メ谷直人 会計理事、宮地勇人 総務理事、山田俊幸 庶務理事、小柴賢洋、田部陽子、古川泰司、前川真人、吉田博、大西宏明、下正宗、長沢光章、矢富裕 各理事  
藤井 聡、諏訪部章、東田修二、木村秀樹、日高 洋、大澤春彦、柳原克紀 各支部理事  
福武勝幸 監事

欠席：古田 耕 監事

### I 理事長挨拶（村上正巳 理事長）

会に先立ち、逝去された次の功労会員、評議員を悼み黙祷が行われた。

2021 年 5 月 13 日逝去 評議員、米山彰子先生（虎の門病院 享年 64 歳）

2021 年 6 月 4 日逝去 功労会員、高橋浩先生（元よろづ相談所病院 享年 94 歳）

その後、村上正巳理事長から挨拶があり理事会の議事を進めた。

### II 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 学術推進化委員会（矢富 裕 担当理事）

2021 年度学術推進化プロジェクト課題について、8 課題の応募があり 3 課題の候補を委員会で選考したこと、1 施設は、機関経理にするため研究助成金授与に関わる寄付金申込書で寄付金扱いにしているが、学術推進プロジェクト助成金は寄付金ではないことを研究者が認識していれば、本助成金について公表するしないは関知しないとしたことが報告された。

##### 2) 編集委員会（吉田 博 担当理事）

優秀論文賞候補の選考を行い、学会賞委員会に報告予定であること、和文誌「日本臨床検査医学会誌」は誌名改称およびサイズ変更後、順調に発刊していること、評議員に査読依頼することに難渋するため、評議員関連の細則に査読は義務であること、そして、査読した場合は評議員再任の単位を付与する改定案を会則改定委員会に検討を依頼したこと、英文誌発刊準備のため、J-Stage と検討を進めていることが報告された。

##### 3) 教育委員会（山田俊幸 担当理事）

2021 年 5 月 29 日（土）の第 76 回関東甲信越支部例会に合わせて RCPC を開催したこと、2021 年 8 月 1 日（日）に東京大学医学部附属病院でワークライフバランス委員会、近畿支部と共催で、第 5 回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナーを開催予定であること、2021 年 11 月 14 日（日）、第 68 回学術集会において RCPC、Catch up セミナーを検討しており、それぞれを臨床検査領域講習として申請すること、常設 e-learning の第 1 巻企画を作成中であり、8 月にリリースを予定していることが報告された。

##### 4) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事、古川泰司 委員長）

次期診療報酬改定提案のため、事前にコスト調査を実施したこと、2021 年 4 月 12 日に、第 1 回委員会を WEB 開催し、臨床検査振興協議会、共同提案団体からの提案、要望をもとに次期診療報酬改訂提案書を作成したが項目、内容を確認し提案順位を決定したこと、4 月 30 日に、次期診療報酬改定提案書 36 件（未記載 3 件、既記載 33 件）を内保連に提出したこと、5 月 13 日に、次期診療報酬改定提案書について、内保連の提案内容ヒアリングが行われたこと、後日、厚生労働省とのヒアリング予定であること、日本医師会・疑義解釈委員会から、供給停止予定の体外診断薬の検討依頼があった場合は、委員会で稟議のうえ回答していることが報告された。

#### 5) 精度管理委員会 (山田俊幸 委員長)

2021年度CAPサーベイについて、血液関連サーベイ(5月10日米国発送)より初回発送が開始され、6月10日の時点で、各サーベイの1回目の発送が完了したこと、COV2-A2021サーベイは当初の予定どおり実施されたが、試料在庫が尽きたため、COV2-A2021と仕様同等のCOV2E-A2021(SARS-CoV-2, 核酸増幅検査)サーベイが追加リリースされたことが報告された。

#### 6) EBLM委員会 (大西宏明 担当理事)

第68回学術集会において、EBLM委員会企画教育セミナーとしてセミナー「臨床検査領域に対する統計・機械学習的アプローチ」というテーマで、1.多変量解析の機能、2.クラスター解析と次元圧縮事例を企画していることが報告された。

#### 7) ガイドライン作成委員会 (吉田 博 担当理事、大西宏明 委員長)

2021年度改訂の臨床検査のガイドラインJSLM2021発行に向けて、大部分の原稿が入稿され、査読も進んでいること、臨床検査のガイドラインJSLMからの転載の許可願いが3件あり、2件は許諾、1件は現在検討中であることが報告された。

#### 8) 医療安全委員会 (大西宏明 担当理事、藤井 聡 委員長)

2021年11月11~14日の第68回学術集会(富山)において委員会企画「ウィズコロナ・アフターコロナの臨床検査:何が変わり、何が変わらないのか」を開催予定であること、また、会期中に委員会開催予定であることが報告された。

#### 9) チーム医療委員会 (田部陽子 担当理事)

「在宅医療」「Covid-19に関する地域連携」「臨床検査技師のタスクシフト」に関してチーム医療の面から委員会内討議を行ったこと、「パニック値」運用に関して各方面からの意見を踏まえて最終的な提言をまとめ、学会ホームページへの掲載や医療機関への配信に進む予定であることが報告された。

#### 10) 会則改定委員会報告 (東條尚子 担当理事、谷直人 委員長)

定款の第1章総則に学会認定の専門医名称「名誉臨床検査専門医」の追加を社員総会に諮ること、細則の評議員候補者の要件と単位表の見直し、「機関誌」への用語統一、文言の統一等と、附則2~5の削除を行う改定案を作成したことが報告された。

#### 11) 国際委員会報告 (宮地勇人 担当理事、小柴賢洋 委員長)

2021年度国際学会奨励賞について、新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年は国際学会の開催が激減し、また出席も困難となったため、国際学会奨励賞への応募は少なかったが、応募のあった2名を受賞候補者としたこと、委員1名が辞退したことが報告された。

#### 12) ワークライフバランス委員会 (山田俊幸 担当理事、田部陽子 委員長)

臨床検査専門医取得に関するサポートセンター活動を継続していること、2021年8月1日(日)13時~17時に、主催:ワークライフバランス委員会・近畿支部、共催:本学会教育委員会・日本臨床検査専門医会教育研修委員会、日本医師会で、第5回医学生のための臨床検査ハンズオンセミナーをWeb開催予定であること、第68回学術集会でワークショップ(RCPC challenge、臨床検査医交流・向上ワーキンググループ企画)を実施予定であることが報告された。

#### 13) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会 (柳原克紀 委員長)

下記の提言を作成し、公表したことが報告された。

①新型コロナウイルス変異株検査に対する考え方 2021年5月27日

②COVID-19病原体検査の指針第4版 2021年6月4日(作成協力)

#### 3. 第68回学術集会報告 (富山2021/11/11(木)~11/14(日)、北島勲 会長) (山田俊幸 庶務理事)

2021年11月11日(木)~14日(日)に、富山国際会議場、富山市民プラザにおいて、北島勲会長(富山大)ならびに仁井見英樹副会長(富山大)のもと、テーマ「学術的な臨床検査医学のおもしろさを広げよう!」として、下記にて開催予定であることが報告された。

・委員会企画、シンポジウム、特別講演、教育講演:対面形成を原則とし、Web参加(演者も)を可としたハイブ

リッド形式での開催を予定している。

- ・一般演題の発表形式はポスター発表（音声付 PPT 動画）とし、座長を付け、チャット欄にコメントを必ず入れてもらう。演者もチャットで回答。座長には事前にデータを見てもらうこととした。
- ・協賛については、デジタルポスターの前に 15 秒広告を検討している。
- ・ランチョンへの協賛協力が少ないため、要望を続ける予定である。
- ・懇親会は中止とした。

なお、コロナの状況が読めないことに加え、直前に福岡で臨床化学会があり短期間に 2 つの学会で同じ演題は避けるため、演題を辞退する例が多く、また同じ理由で人を短期間に割けないので協賛できないという企業があいついで苦戦している。財政的に運営がきつくなったので、少し規模を小さくかつ懇親会もコロナに加え費用面で無理と判断したことや、関連する大きな学会との競合は避けたいので日程調整が必要であるとのコメントが伝えられた。

#### 4. 第 69 回学術集会報告（宇都宮 2022/11/17(木)～11/20(日)、山田俊幸 会長）

2022 年 11 月 17 日（木）～20 日（日）に、栃木県総合文化センター（メイン）、宇都宮東武ホテルグランデ（サブ）において、山田俊幸会長（自治医大）のもと、テーマ「地域社会に貢献する臨床検査」として開催予定であり、可能であれば対面開催したいことが報告された。

#### 5. 関連団体報告

##### ・日本臨床検査専門医会（~~メ~~谷直人 日本臨床検査専門医会 会長）

会員動向：会員数 801 名であること、2021 年度の総会、全国幹事会、常任幹事会、出版物、教育・研修活動、広報・渉外活動予定、教育セミナーは、2020 年は対面開催を取りやめ希望者（38 名）に資料を有料配布し、2021 年は、Web セミナー形式で開催した（36 名参加）こと、第 30 回春季大会（橋口照人大会長：鹿児島大学）は、2020 年の開催を中止し、2022 年 5 月に鹿児島で開催することになり、これに伴い生涯教育講演会も中止となったこと、第 31 回春季大会（植木重治大会長：秋田大学）、これに伴い生涯教育講演会は、2021 年 5 月 21 日・22 日に全面 Web にて開催したことが報告された。

##### ・日本臨床検査同学院（宮地勇人 日本臨床検査同学院 理事長）

2021 年度臨床検査士資格認定試験（一級臨床検査士、二級・緊急臨床検査士、遺伝子分析科学認定士、POCT 測定認定士）について、2020 年度は中止されたが、2021 年度は実施予定であり、その詳細、講習会（免疫血清学技術、微生物検査基本技術、寄生虫検査法技術）・微生物学英語勉強会については、2020 年度は中止されたが、2021 年度は可能な科目を Web 開催すること、緒方富雄賞選考、授賞式及び記念講演会の予定、第 68 回日本臨床検査医学会学術集会の共催シンポジウムはテーマ「新たな時代に向けた臨床検査領域の人材育成」として開催予定であること等が報告された。

##### ・日本臨床検査標準協議会（古川泰司 日本臨床検査標準協議会 理事）

2021 年度事業計画、重点項目として、①委員会活動の推進（多項目実用参照物質検討委員会、遺伝子関連検査標準化専門委員会、ISO/TC212 国内検討委員会および ISO/TC272 国内審議委員会、認証委員会、認証評価委員会、標準採血法検討委員会、基準範囲共用化委員会、臨床検査室認定プログラム）、②JACRI 標準化事業、③委託事業を含む厚生労働省及び経済産業省との関係強化、④多項目実用参照物質（MacRM-001）及び 3 濃度タイプ（MacRM-002）の新ロット作製・値付けとの頒布、⑤常用参照標準物質 JSCC 常用酵素 CRM-001d の頒布先拡大、⑥公益法人化後の業務体制強化、⑦ISO/TC272 国際委員会「新規プロジェクト案（ISO/PWI 24436 Breath alcohol concentration 呼気アルコール濃度）」の規格化推進を推進していくこと、秋に令和 3 年度学術集会 JCCLS シンポジウムを予定していること、7 月末に会誌 36 巻 1 号を発行予定であること等が報告された。

##### ・日本医療検査科学会（~~メ~~谷直人 日本医療検査科学会 理事）

各種会議予定（理事会、委員会、社員総会、総会）、2021 年 4 月 18 日（日）に第 35 回春季セミナー（前田士郎例会長：琉球大）が沖縄県市町村自治会館で、2021 年 10 月 8 日（金）～10 日（日）に第 53 回大会、委員会技術セミナー（同時開催：展示会 JACLaS EXPO 2021）（柳原克紀大会長：長崎大）がパシフィコ横浜で開催予定であること、医療検査と自動化（日本医療検査科学会誌 46 巻 1～5 号）、補冊（科学技術委員会、POC 技術委員会）を刊行予定であること等が報告された。

##### ・臨床検査振興協議会（村上正巳 臨床検査振興協議会 理事長）

2021 年度診療報酬改定小委員会、診療報酬制度小委員会、在宅医療における臨床検査に関する小委員会、遺伝子関

連検査に関する小委員会、感染症対策に関する小委員会、大規模災害対策委員会、広報委員会活動、臨薬協選出理事交代、顧問1名の辞任、診療報酬制度小委員会、遺伝子関連検査に関する小委員会、感染症対策に関する小委員会の委員長交代、事務局員1名の追加採用、2022年4月に法人化する計画等について報告された。

#### 6. 関連団体等への派遣委員等について（更新）（村上正巳 理事長）

前回、理事会3月28日以降の当会からの下記派遣委員（敬称略）等について報告された。

1) 日本医学会評議員、連絡委員、医学用語委員および代委員（任期：2021年6月19日～2023年6月の日本医学会臨時評議員会開催日まで）

評議員：村上正巳、連絡委員：東條尚子、医学用語委員：東條尚子、代委員：谷直人

2) 日本消化器内視鏡学会 サブスペシャルティ領域専門医制度検討委員会委員（2021/4/12に推薦）

委員：加藤博之、坂本輝彦

3) 日本臨床検査標準協議会 理事（任期：2021年7月1日から2年間）

理事：村上正巳、古川泰司

4) 臨床試験医師養成協議会 理事（任期：2021年9月予定の社員総会より～2023年9月開催予定の社員総会）

理事：東田修二

#### 7. 認定試験について

1) 第1回機構専門医・第38回臨床検査専門医認定試験（東京 2021/8/22(日)）（東田修二 専門医試験実行委員会委員長）

2021年8月22日（日）に、東京医科歯科大学医学部で、第38回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験、第1回日本専門医機構基本領域臨床検査専門医認定試験を実施予定であり、機構専門医受験者3名、初回学会受験者4名、2020年のコロナによる初回学会振替受験者3名、再試験受験者（科目受験）4名の合計14名であること、7月22日（木、祝）に、領域代表者、試験実行委員長、試験委員長および副委員長で試験問題のブラッシュアップを行うことが報告された。

2) 第13回臨床検査管理医講習・認定試験（東京 2021/8/22(日)）（山田俊幸 管理医試験実行委員会委員長）

2021年8月22日（日）に東京医科歯科大学医学部で、第13回臨床検査管理医講習・認定試験を、受験者38名で実施予定であることが報告された。

#### 8. 2022年度功労賞「河合忠賞」受賞候補者について（村上正巳 理事長）

2022年度功労賞・河合忠賞の規定に合致した候補者について、4月15日に、理事、監事宛に7月31日期日で推薦依頼をしているが、あらためて推薦依頼がなされた。

#### 9. 臨床検査専門医関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事）

2027年1月1日から適応になる更新基準の変更点について報告された。

・一日の単位取得の上限単位については、当初4単位が想定されていたが、基本領域学会からの反対意見が多かったため、各学会で適切な単位数を設定することとなった。

・共通講習の必須講習が3分野から8分野となるが、当会での用意が難しいため、日本専門医機構の用意したものを利用することになる。

・認定期間の変更について、必須ではないが、日本専門医機構は4月～3月を考えていることについて、当会は1月～12月としており、ずらしてしまうと歪みが出てしまう可能性があるため、当面は従来通りの認定期間としたい。

・更新時にテストをすることについては、努力義務となった。

・当初、義務とされていた地域医療への貢献については、努力目標となり共通講習受講に振り替えられた。

2020年度申請の基本領域と日本専門医機構が承認しているサブスペシャルティ領域と、基本領域が認定し日本専門医機構に推薦するサブスペシャルティ領域一覧が示され、当領域のサブスペシャルティ領域として考えられる感染症専門医、消化器内視鏡専門医について関係者で協議していることが報告された。

#### 10. 「血液検査パニック値（緊急異常値）に係る死亡事例」専門部会について（村上正巳 理事長）

日本医療安全調査機構の医療事故調査制度が開始（2015年10月）されてから、血液検査パニック値（緊急異常値）に関連した死亡事例は17件で、そのうち医師に伝わらなかった事例が12例あった。そういった関連する死亡を回避するため、原因と背景を明らかにし、パニック値検出時の報告システム等を検討し再発防止策を講じるため、当会村上正巳理事長が部会長となり、専門分析部会（臨床検査専門医2名、内科医療専門の医師1名、救急医療専門の医師1名、医療安全担当の医師1名、看護師1名、臨床検査技師2名、薬剤師1名、診療情報管理士1名、システム構築面の専門家1名で構成予定）を設置し、2021年11月から2022年9月に活動予定であることが報告された。

#### 11. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン筋肉内注射の臨床検査技師による接種について（村上正巳 理事長）

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を更に加速かつ円滑に進めるために、ワクチン接種体制における各医療関係職種の効果的・効率的な役割分担の在り方等について、5月31日に、厚生労働省医政局、健康局、医薬・生活衛生局で、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を推進するための各医療関係職種の専門性を踏まえた対応の在り方等に関する検討会が開催され、臨床検査技師と救急救命士については、必要な研修を組むことでワクチン接種を行う人材として違法性が阻却されると整理され、日臨技には、6月4日に、各地域の実情に合った接種体制の構築の協力依頼があった。

6月2日に、当会へ必要な研修について助言依頼があり、理事長が対応した。

そして、これに伴い日臨技から、当会に、実際に臨床検査技師が接種手を担うことについて、接種体制、実技研修等への協力依頼があった。

なお、6月20日に開催された群馬県実技研修会が参考例として紹介された。

#### 12. 遠心処理後に測定する HbA1c 測定法での採血管の取扱い(EDTA 入り採血管推奨)について（村上正巳 理事長）

HbA1c の測定法には、全血試料をそのまま用いる方法と、一度採血管を遠心し、その赤血球層を用いる測定法（HPLC 法の一部、免疫法の一部および酵素法の一部）があるが、赤血球層を用いる測定法において、全血の検体を長時間冷蔵保存し搬送した場合に、老化した赤血球ほど溶血しやすく HbA1c が低値になることが報告された。HbA1c の測定を外部の検査機関に委託する場合など、全血の検体を冷蔵、運搬、保存し、赤血球層で HbA1c を測定する場合は、溶血の影響を受けにくい EDTA 採血管の使用が推奨される。

本件を日本糖尿病学会、日本臨床化学会、当会連名でお知らせとして公開することが報告された。

#### 13. 「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」の第 11 回改訂版(ICD-11)和訳の確定作業依頼について（村上正巳 理事長）

厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）付参事官付保健統計室・国際分類情報管理室から「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」の第 11 回改訂版(ICD-11)和訳の確定作業依頼があり、前回の確定作業を行った当会 ICD-11 和訳タスクフォース メンバーをお願いすることが報告された。

#### 14. 日臨技からの臨床検査技師指定講習会に関する依頼について（村上正巳 理事長）

日本臨床衛生検査技師会から、医師の働き方タスクシフト/シェア推進にあたり、臨床検査技師が実施する場合の講習会開催にあたり、超音波に関する行為の教材、テキスト作成の監修という立場での依頼があり、自治医科大学の谷口先生、尾本先生が担当し進めていることが報告された。

#### 15. Japan CDC(仮称)創設に関する委員会(第二次)「新型コロナウイルス感染症の情報発信ワーキンググループ」の当会からの主要課題とメンバーについて（当会本委員会委員：宮地勇人 理事）

日本医学会連合 Japan CDC(仮称)創設に関する委員会(第二次)より、「新型コロナウイルス感染症の情報発信ワーキンググループ」ワーキングメンバーと検討課題の検討依頼があった。

ワーキングメンバーとして高橋宏通先生（日本大）を推薦した。

検討課題としては、「①病原体検査・抗体検査の臨床的な意義の確立、品質確保と報告のあり方。」「②病院感染防止における PCR 検査等の運用に関するエビデンス作成。」を提出したことが報告された。

#### 16. 選挙管理委員会報告（選挙管理委員会 〆谷直人委員長）

2021年度に実施する、2022・2023 理事、2022・2023・2024・2025 監事選挙について、改選人数は理事 8 名、監事 1 名であること、立候補制であり、選挙日程については、下記であることが報告された。

- ・公示：2021年9月7日（火）
- ・立候補届受付期間：2021年10月11日（月）～ 10月28日（木）
- ・選挙投票用紙発送：2021年11月22日（月）

・投票締切：2021年12月3日（金）

・開票：2021年12月4日（土）

## 17. その他

特になし。

## Ⅲ 審議事項

### 1. 第67回学術集会計報告（岩手2020/11/19（木）～11/22（日））（村上正巳 理事長、諏訪部章 会長、ㄨ谷直人 会計理事）

2020年11月19日～11月22日に開催された第67回学術集の会計報告があり、新型コロナウイルス感染拡大を鑑みハイブリッド開催となり、その影響で非会員参加が少なかったこと、ランチョンセミナーへの協力が少なかったことはあるが、収支差額が約390万円あり、学会本部へ組み入れることができるという報告があった。

監事より会計報告の形式として予算、決算を記載する提案があった。

### 2. 定款・細則の一部改定について（村上正巳 理事長、会則改定委員会、東條尚子担当理事、ㄨ谷直人 委員長）

定款の第1章総則に学会認定の専門医名称「名誉臨床検査専門医」の追加を社員総会に諮ることが提示され、承認された。細則の本学会機関誌名の変更、会員マイページ運用に伴う改定案、評議員候補者要件の一つとして機関誌の査読に協力できること、また、査読を行った場合評議員再任単位取得ができることが追加、附則の2～5の削除となる改定案が提示され、承認された。

### 3. 2021年度国際学会奨励賞候補者について（村上正巳 理事長、国際委員会 宮地勇人担当理事、小柴賢洋 委員長）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年度の国際学会の開催が少なかったが、オンライン開催に参加した2名より応募があり、国際委員会での審査で兩名（松尾英将氏：京都大学、波野史典氏：鹿児島大学）とも評価が高かったため、国際学会奨励賞の受賞候補者として推薦され、承認された。

### 4. 「臨床検査を終了した 既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について—日本臨床検査医学会の見解— 2021年改訂（案）について（村上正巳 理事長、古川泰司 倫理委員会 担当理事）

臨床検査を終了した 既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について、理事会に先立ち意見を求めたうえで、倫理委員会で検討した改訂案が提示され、残余検体（既存試料）の二次使用に関する見解は、当会のものしかないので、非常に重みがある。文章に「のぞましい」という表現があるが、幅のある受け取り方をされてしまうので、判断の迷わない表現にしたほうがよい。また、医学系倫理連絡協議会で、本見解を資料としたが、多くの方にアピールできたと思う。という意見があった。

理事会、遺伝子委員会からの意見について、倫理委員会で再検討のうえ、次回、理事会で確認することとなった。

### 5. パニック値運用に関する提言（案）、パニック値一覧（別表）について（村上正巳 理事長、諏訪部章 先生）

検査部長・技師長からの意見、理事会前の理事からの意見を検討して、パニック値一覧の血液ガス部分等を修正した提言書が提示され、今後は、機関誌とホームページへの掲載、臨床検査のガイドラインJSLM2021への掲載を進めたいとのことであった。

ただし、医療安全と密接に関係しているのでリンクさせること、検査センター、その他関連する団体、施設からの意見を求めるべきと思うため、その方法、期日などを委員会で検討してほしいという意見があり、継続して検討することとなった。

### 6. 委員会委員（追加、辞退）について（村上正巳 理事長）

遺伝子委員会 1名の追加、国際委員会 1名の退任が提示され、承認された。

### 7. 地域の臨床検査に関するアドホック委員会（仮称）設置について（山田俊幸 専門医担当理事）

日本専門医機構基本領域臨床検査専門医の更新基準で、当初、機構からの案では義務とされていた地域医療への貢献については、努力目標となり共通講習受講に振り替えられた。

しかし、本学会では、都道府県により臨床検査専門医人数に偏りが見られることについて検討すべきと考え、臨床検査に関するアドホック委員会（仮）を設置することについて諮られ、承認された。

なお、担当理事は山田俊幸先生、委員長は小谷和彦先生、委員については、各支部から推薦いただく予定である。

#### 8. 2021 年度からの名誉会員について（村上正巳 理事長）

2022 年度からの名誉会員について資格要件が確認され、下記 4 名の推薦が承認された。

- ・ 賀来満夫先生（東北医科薬科大学）  
※推薦理由：2019 年から功労会員、支部理事任期 7 年経験者
- ・ 本田孝行先生（信州大学）  
※推薦理由：2021 年から功労会員、支部理事任期 6 年経験者
- ・ 村田 満先生（慶應義塾大学）  
※推薦理由：選挙理事任期 4 年・理事長 4 年経験者、学術集會会長経験者
- ・ 康 東天先生（九州大学）  
※推薦理由：支部理事任期 4 年経験者、学術集會会長経験者

#### 9. その他

##### 2021 年度 審議会、理事会日程の確認（山田俊幸 庶務理事）

次回以降の 2021 年度の臨床検査専門医・管理医審議会、理事会の日程が報告され、確認依頼がなされた。

##### 【2021 年度理事会日程】

第 3 回：2021 年 10 月 16 日（土）14：00～17：00

第 4 回：2021 年 12 月 25 日（土）13：30～16：30

#### IV 閉会（東條尚子 副理事長）

東條尚子副理事長より閉会の言葉があり、2021 年度第 2 回理事会は閉会された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する。

2021 年 9 月 13 日

一般社団法人 日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 村上正巳 ㊟

副理事長 東條尚子 ㊟

監事 福武勝幸 ㊟